

大学共同利用機関法人自然科学研究機構

令和2事業年度財務諸表の概要

自然科学研究機構は、平成16年度に法人化し、大学共同利用機関法人として国内外の研究者に対し共同利用・共同研究の場を提供するとともに、自然科学の最先端の研究や関連分野の研究を発展させるための活動を行っています。

本機構における令和2事業年度財務諸表の概要は以下のとおりです。

<貸借対照表>

本機構の財政状態を明らかにするため、基準日（令和3年3月31日）におけるすべての資産、負債及び純資産を記載しています。

(単位:百万円、%)

区分	令和元年度	令和2年度	対前年度 増△減額	増減率	区分	令和元年度	令和2年度	対前年度 増△減額	増減率
	A	B	B-A	(B-A)/A		A	B	B-A	(B-A)/A
資産の部					負債の部				
有形固定資産	89,926	91,132	1,206	1.3	資産見返負債	33,152	32,542	△ 610	△ 1.8
土地	28,785	28,780	△ 5	0.0	引当金	-	-	-	-
建物	29,296	28,959	△ 337	△ 1.1	資産除去債務	545	554	9	1.6
構築物	704	657	△ 46	△ 6.6	長期未払金	2,044	3,668	1,624	79.4
工具器具備品	17,226	18,272	1,045	6.0	固定負債合計	35,742	36,765	1,023	2.8
建設仮勘定	11,127	11,677	549	4.9	運営費交付金債務	2,422	3,615	1,193	49.2
その他	2,785	2,785	0	0.0	寄附金債務	1,230	1,362	132	10.7
無形固定資産	5,242	5,019	△ 223	△ 4.2	前受金等	363	365	1	0.4
投資その他の資産	135	114	△ 20	△ 15.3	預り科学研究費補助金	358	752	393	109.7
固定資産合計	95,304	96,266	961	1.0	未払金	6,865	6,700	△ 164	△ 2.4
現金及び預金	9,882	10,778	895	9.0	その他	88	78	△ 9	△ 11.2
未収入金	87	84	△ 2	△ 2.7	流動負債合計	11,329	12,875	1,546	13.6
たな卸資産	348	354	5	1.4	負債合計	47,071	49,640	2,569	5.4
前払費用	263	204	△ 59	△ 22.6	純資産の部				
その他	0	76	76	0.0	資本金(政府出資金)	75,038	75,035	△ 2	0.0
流動資産合計	10,582	11,497	914	8.6	資本剰余金	△ 16,536	△ 17,313	△ 777	4.6
資産合計	105,887	107,764	1,876	1.7	利益剰余金	314	401	87	27.7
					重点研究推進積立金	15	16	0	3.5
					積立金	29	40	10	36.3
					当期未処分利益	11	87	75	671.6
					純資産合計	58,815	58,123	△ 692	△ 1.1
					負債純資産合計	105,887	107,764	1,876	1.7

(※端数整理のため合計は一致しません)

◆ 資産

資産総額は1,077億円で、前年度に比べ18.7億円増加(1.7%増)しました。これは新型コロナウイルスの影響による事業遅延などのため繰り越すこととなった現金及び預金額が8.9億円増加し、新たなプラズマシミュレータシステムの導入などにより工具器備品が10.4億円増加したことなどによるものです。

◆ 負債

負債総額は496億円で、前年度に比べ25.6億円増加(5.4%増)しました。これは新型コロナウイルスの影響による事業遅延などのため繰り越すこととなった運営費交付金債務が11.9億円増加し、新たなプラズマシミュレータシステムの導入などにより長期未払金が16.2億円増加したことなどによるものです。

◆ 純資産

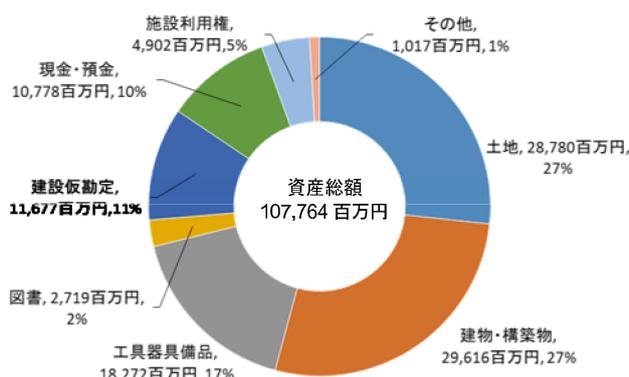
純資産総額は581億円で、前年度に比べ6.9億円減少（1.1%減）しました。

これは資本剰余金が損益外減価償却等により7.7億円減少したことなどによるものです。

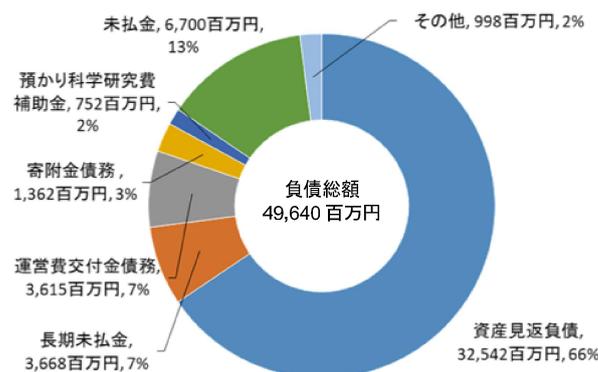
（「純資産」は国立大学法人会計基準等の改正により、平成19年度から従来の「資本」から名称変更したものです。）

◆ 資産・負債の構成内訳

【資産の部】



【負債の部】



< 損益計算書 >

本機構の運営状況を明らかにするため、一会計期間（令和2年4月1日～令和3年3月31日）におけるすべての費用と収益を記載しています。

				(単位: 百万円、%)					
区分	令和元年度	令和2年度	対前年度増減額	増減率	区分	令和元年度	令和2年度	対前年度増減額	増減率
	A	B	B-A	(B-A)/A		A	B	B-A	(B-A)/A
経常費用 a	33,643	31,325	△ 2,318	△ 6.9	経常収益 c	33,648	31,427	△ 2,220	△ 6.6
業務費	31,860	29,778	△ 2,082	△ 6.5	運営費交付金収益	24,389	23,326	△ 1,063	△ 4.4
教育経費	1	0	△ 1	△ 69.5	大学院教育収益	246	234	△ 11	△ 4.7
大学院教育経費	144	134	△ 9	△ 6.7	受託研究等収益	2,133	1,479	△ 654	△ 30.7
研究経費	3,293	3,046	△ 247	△ 7.5	寄附金収益	288	276	△ 12	△ 4.2
共同利用・共同研究経費	12,939	11,802	△ 1,137	△ 8.8	施設費収益	472	222	△ 249	△ 52.8
教育研究支援経費	2,602	2,485	△ 116	△ 4.5	補助金等収益	1,782	1,671	△ 110	△ 6.2
受託研究費等	2,095	1,458	△ 637	△ 30.4	資産見返負債戻入	3,545	3,448	△ 96	△ 2.7
人件費	10,782	10,849	66	0.6	財務収益	12	3	△ 9	△ 75.1
一般管理費	1,778	1,511	△ 267	△ 15.0	雑益	777	764	△ 12	△ 1.7
財務費用・雑損	5	36	31	608.8	経常利益 d=e-a	4	101	97	-
臨時損失 b	111	86	△ 25	△ 22.5	臨時利益 e	94	71	△ 22	△ 24.0
					当期純利益 f=e-b+d	△ 13	87	100	-
					目的積立金取崩額 g	24	0	△ 24	-
					当期総損失/利益 f+g	11	87	75	-

(※端数整理のため合計は一致しません)

◆ 経常費用

経常費用の総額は313億円で、前年度に比べ23.1億円減少（6.9%減）しました。これは受託研究費の受入額の減少に伴い受託研究費が6.3億円減少したことや、新型コロナウイルスの影響による出張の減少に伴う旅費の減少や委託調査研究費及び支払派遣費等が減少したことなどにより共同利用・共同研究経費が11.3億円減少したことなどによるものです。

◆ 臨時損失

臨時損失の総額は0.8億円で、主に固定資産の除却損（残存価額相当分）を計上しています。

◆ 経常収益

経常収益の総額は314億円で、前年度に比べ22.2億円減少（6.6%減）しました。これは新型コロナウイルスの影響による事業遅延などにより運営費交付金収益が10.6億円減少したことや、受託研究費の受入額の減少に伴い受託研究収益が6.5億円減少したことなどによるものです。

◆ 臨時利益

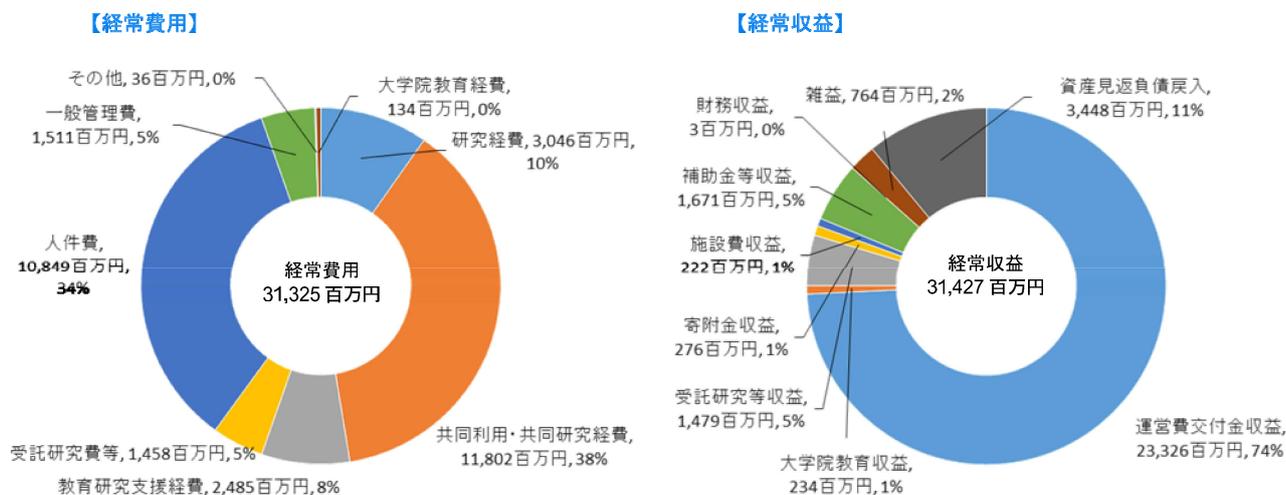
臨時利益の総額は0.7億円で、固定資産の除却に伴う資産見返負債戻入等を計上しています。

◆ 当期総利益

収益から費用を差し引いた0.8億円が当期総利益となります。

利益を計上するに至った主な要因は、経費節減等による剰余金、ファイナンスリース取引特有の会計処理による利益、国立大学法人会計基準に則り処理した結果発生する資産見返負債の立たない資産の取得及び費用化によるものの差額による利益を計上したことなどが挙げられます。

◆ 経常費用・経常収益の構成内訳



(お問合せ先)

自然科学研究機構 事務局財務課財務係

電話 03-5425-2040 FAX 03-5425-2049